



くさばな しんぶん

2021年3月号

2021 (令和3) 年

3月2日発行

通算第298号

私のおすすめの絵本

(この欄は教職員が交代で担当します)

バムとケロのシリーズ 作・絵 島田 ゆか



《子ども会が終わりました》

先週末の子ども会には、保護者の皆さまにお出でいただきありがとうございました。この日に向けて1月から各クラスで練習を積み重ねてきました。しかし、なかなか解除されない緊急事態宣言に、正直、開催できないのではないか…という不安が付きまとい、市内の感染状況や、近隣の感染状況をチェックする日々となりました。お子さまたちの頑張りと、1年間の成長をどうにか保護者の方にもご覧いただきたいという思いで職員で話し合いを重ね、今回のような形で開催としました。保護者の皆さまの中には、いろいろなご意見があるかと思いますが、昨年に引き続き子ども会が開催できた裏では、保護者の皆さまのお子さまへの健康管理や毎日の検温など、ご苦労もあったと思います。また、当日も、細かいスケジュールでの入れ替えや、駐車場の制限など、ご不便をお掛けしたにもかかわらずご協力をいただき、終始、トラブルもなくスムーズに進めることができました。改めて保護者の皆さまのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

《くさばな幼稚園の子ども会とは…》

2年連続で本来行っている子ども会が開催できませんでしたが、本来、くさばな幼稚園の子ども会は、お子さまたちもお客様となり、目の前で頑張る友達の姿を見るというスタイルで行っています。昨年もこのコーナーで書かせていただきましたが、子ども会において自分たちが前に出て演技するだけでなく、友だちの姿を見ることは、自分の目で見て覚えることの多いお子さまにとって、私たち大人が教えるよりも大きな意味があるという考えのもと、そのように行ってきました。昨年に続き本来の形で開催できずとても残念でしたが、この状況下でも少なくとも保護者の方にはクラスの演目はご覧いただけただので、良かったと思っています。このような状況が1日も早く終息し、来年こそは、本来の形で子ども会が行われるように願っております。

さて、今年度も残すところ3週間余りとなりました。新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったとのニュースもありますが、実際、私たちが受けられるようになる日はもう少し先となりそうです。園では、引き続き感染予防に努め、お子さまたちが安全に楽しく園生活を送れるようにしていきたいと思っております。ご家庭におきましても引き続きお子さまの体調の変化等にご注意いただき、予防に努めていただきますよう、お願いいたします。

園長 影山 幸江

《学校へ行く準備》

2月27日の子ども会を鑑賞しながら、年長児のみなさんの大人びた、という幼児を脱しつつある姿にとても驚きました。こうした感想は毎年毎年味わっているはずなのですが、ことしも強く味わうことができました。日々細胞が更新され、増殖し、つやつやした皮膚の輝きとともに、内面から皮膚を突き通して表面に躍り出るエネルギーと躍動感は見ている者の胸に突き刺さってくるような迫力を感じました。6歳で幼児を卒業し、「学童」への階段を駆け上がって行くその様子を見るたび、学校が6歳から始まるその制度はやはりよくできているなあ、とつくづく思います。

しかし世の中には、もっと学齢を引き上げて5歳からにしようという議論は昔から漂っていて時々顔を出します。学力を高めるためには早期教育が必要であるとか何とか。要するに今の1年生の勉強を、5歳児から施そうというのです。もちろん今の1年生の教育課程をそのまま持ち込むということではなく、それなりに工夫したものとなるのでしょうか、さて、どうなのでしょう。

こうした主張の眼目は、学力全体を引き上げ、国際競争に打ち勝つことにあるようです。早期に知的教育を施して全体の学力を底上げし、資源に乏しい日本の将来を切り開こうというものです。しかしそう簡単なことではないように思います。人間の成育に見合ったものでないと、うまくいかないように思います。知力と体力がともに充実して初めて学ぶ力も育つのです。それには人間という生物の持つ本来的な成長曲線に見合ったものでなければならぬと思います。

理事長 山城 清邦



バムとケロのシリーズは、私が小学生の頃から何度も読んできた大好きな絵本です。絵や登場してくるキャラクターがかわいくて、クスッと笑ってしまうような内容です。また、どのシリーズにも様々な所に、ケロ(かえる)が隠れていて、子どもの頃はそのケロを見つけることも楽しんでいました。絵をじっくり見ながら、ぜひご家族で読んでみてください！

神谷 帆乃香

《墓の神(さいのかみ) 一平井川・秋川流域の伝統行事》

幼稚園が位置する場所が、多西(たさい)地区と草花地区とが隣接されています。この地区を貫いて流れる平井川流域には、昔から「墓の神」と呼ばれるお正月の伝統行事があります。秋川流域でも行われています。これは「どんと焼き」とか「左義長(さぎちょう)」とも呼ばれ、全国的に広がりを持った行事です。行うのは各町内会が主体です。本来お正月(こしょうがつ)である1月15日(かつての「成人の日」)の早朝に各町内会が一斉に行っていました。しかし祝日法の改正で成人の日が年によって違う事態となり、今は各町内会がそれぞれ日を決めて行っていますので、ばらばらとなっています。また、この行事は「墓の神」という呼び方が地元では一般的で、「どんと焼き」とこの地元で呼ばれるようになったのは最近のことではないかと思えます。

この行事の由来には諸説があるようで、これという説明の決め手はないように思えますが、村境の神であり、外からの疫病や悪霊を防ぐためのものであるとする、いところから行われるようにいようです。私の勝手な想像では、か、と思うのですが。

木や竹で4から5メートルほから集めた注連縄などを飾り付けます。ポンポンと竹が弾ける音の持つ、人間の原始的な感性に訴えて来て、不思議な躍動感を覚えます。



のが大方の共通点でしょうか。まなつたのか、それもよく分からない縄文か弥生時代に遡るのではない

どの高さの円錐を2基作り、家けて、早朝5時半ごろに火を放か響き渡ってとても勇壮です。火える力が視覚と聴覚から飛び込ん

ことは1月10日に、小宮町内会と原小宮町内会の墓の神が行われました。写真は手前が小宮町内会、奥が原小宮町内会の墓の神の様子で、南小宮橋から撮影しました。時あたかもコロナという疫病の感染が広がっている時でもあり、昔からの人びとの危機意識と疫病退治の願いを共有できたような気がしました。

幼稚園の保護者の方で、この地に引越して来られた方がたくさんおられるはずですが、1年の無病息災を祈る行事がこの地にあることをお知らせしたくてご紹介しました。私が子どもの頃は子どもたちが大いに力を発揮した行事でした。しかし今はおとなが主体にならないと続けれない行事になっています。町内会の方に声を掛けられ、歓迎してくれると思いますので、ぜひこの行事に携わってみてください。